

## 令和5年度地区懇談会（幌別西地区） 議事録（概要）

令和5年10月4日（水）18:00～19:40

市民会館中ホール 出席者25名

### 6. 個別避難計画の策定に向けた取り組みについて

質問：幌別西地区連合町内会長

- ・ 個別避難計画とは、災害が起こった際に自力避難可能な方が自力避難困難な方を連れて逃げてくださいというものであると認識している。
- ・ 去る9月9日に登別市連合町内会主催の全市一斉防災避難訓練を行ったが、当地区の津波被害が想定される10町内会で、避難に一番時間を要した町内会では33分掛かっている。早い町内会でも17分掛かる。実際の災害は夜間や冬期にも発生するため、避難にはもっと時間が掛かると想定され、逃げ遅れる可能性が高い。助け合わなければならない前提ではあるが、時間が無い中でどのように助け合うことができるか、具体的に考えなければならない。
- ・ また、町内会ごとに自力避難が困難な方を把握するよう言われているが、町内会役員であっても各個人の状態について詳細を押さえているわけではないため、振り分けは難しい。どうしても町内会で振り分けを行わなければならないのであれば、市の方で基準を示していただきたい。

回答：総務部長

- ・ このたびの訓練で時間が掛かった町内会で33分とのことであるが、それをどう早くしていくかが重要である。普段から玄関などに避難袋を用意しておくなど、備えによって工夫していただきたい。
- ・ また、避難に当たり支援が必要な方は確実におり、それを見過ごすことはできない。その方がたを助ける時間をつくるためにも日ごろから訓練を重ね、改善点を見つけていく必要がある。その中で行政としてできることも考えていく。

### 8. 地区連合町内会が市と意見交換したい事項：（1）幌別川中州の樹木除去について

質問：幌別西地区連合町内会長

- ・ 幾度か要望しているが、昨今は今までに無い激しい雨が急に降ることがある。そのような予期せぬ増水時、樹木が流され橋桁を塞ぎ、住宅街への逆流を含めた氾らんの恐れがある。北海道の管轄であると思うが、胆振幌別川と来馬川について今一度点検を願う。

回答：都市整備部次長

- ・ 該当の河川は北海道の管理する河川であり、北海道胆振総合振興局室蘭建設管理部登

別出張所に確認を行った。

- ・ 胆振幌別川の中州の伐木等については、これまでも継続的に実施してきており、近年の実績としては、平成30年度に小平岸橋の50m上流側80m区間の河道内に堆積した土砂の浚渫及び樹木の伐開。令和2年度にその上流側70m区間の浚渫と伐開。令和4年度にはさらにその上流側となる500m区間の伐開及び河口付近の来馬川合流点から上流側約60m区間の浚渫を実施している。
- ・ また、来馬川については、令和5年度に常盤町6丁目の東来馬橋上流の伐開を行ったと聞いている。
- ・ 今後も、日常的なパトロールなどにより、胆振幌別川や来馬川の土砂などの堆積状況の把握に努め、流下能力を阻害していると判断した場合には、生物の生息・生育環境の保全に配慮しながら関係機関と協議を行い、理解を得ながら浚渫等を実施していきたいと聞いている。

#### 意見：山手町内会副会長

- ・ 小平岸橋から桜新橋、それから来福橋の間については、樹木がほとんど伐採されていない。この区間は30～40年伐採が行われておらず、大木になっているものもある。
- ・ 今後どのように整備を計画しているのか。これらの計画や実施する意向を町内会へ示していただきたい。
- ・ これらの川沿いには住宅地も多く、氾濫して住宅に被害が出てから対応するのではなく、事前に整備することが重要である。
- ・ 来馬川についても、相生橋、富士橋、西新橋あたりに樹木が茂っており、特に登別商工会議所の付近で大木が目立つ。これらの対応をお願いしたい。

#### 回答：都市整備部次長

- ・ 今後の計画という点で北海道に確認したいと思うので、時間をいただきたい。

### 8. 地区連合町内会が市と意見交換したい事項：(2) 鹿の駆除について

#### 質問：幌別西地区連合町内会長

- ・ 野生の鹿について、最近公園や住宅街にも出没している。一時、「にらみ合い状態」になったと言う方もいる。特に子供と高齢者への事故が心配である。ネットなどで対策を行ってはいるという話だが、畑への被害も各町内会から報告されており、駆除などの対応をお願いしたい。

#### 回答：観光経済部次長

- ・ 道内ではエゾシカの生息頭数が年々増加しており、市はエゾシカを含めた野生動物の被害対策として有害鳥獣駆除業務による捕獲を行い、市街地への出没などの被害軽減に努めているところ。

- ・ 市民と鹿の遭遇時の事故の心配についてだが、市では対処方法や畑などの被害対策などをまとめたリーフレットを市公式ウェブサイトに掲載している。
- ・ また、自宅の畑をネットで囲むなど簡単に鹿が入り込めない対策をすることで、鹿が出没する頻度を減らせると考えるため、ご自身の畑はもとより、近隣の方とも協力し、市の駆除と合わせて被害対策にご協力いただきたい。

**質問：山手町内会副会長**

- ・ 個人での対策については理解したが、市での駆除の計画などをお聞きしたい。

**回答：観光経済部次長**

- ・ 毎年冬期に猟友会室蘭支部が大規模捕獲を行っている。令和5年度も冬期に実施する予定。実施地区については資料が手元にないため回答が難しいが、これからも継続して行う考え。

**意見：山手町内会副会長**

- ・ 幌別西地区でこのような要望が出ているため、当地区でも実施していただくようお願いする。

**8. 地区連合町内会が市と意見交換したい事項**

**(3) 市内循環バス（中央町→常盤→柏木→富士）テストについて**

**質問：幌別西地区連合町内会長**

- ・ 現在、高齢者が増えている状況で、住んでいる場所によっては買い物なども難しく感じている。これに関し、この実証実験の結果に強い関心を持っている。現在までの状況・経過について説明をお願いする。

**回答：市民生活部次長**

- ・ 現在までの状況について、常盤町及び柏木町は登別市地域公共交通計画において公共交通空白地域と位置付けており、何らかの支援が必要な地域となっている。
- ・ 計画策定時のアンケート調査では、現在ではなく将来的にコミュニティバスなどのきめ細やかな支援が必要と回答した方が多い状況であったので、実際に交通を運行させ利用ニーズを把握するため、市バスによる実証実験を実施した。
- ・ 実証実験については、幌別駅前から常盤町、幌別浄水場、柏木町、富士会館、富士郵便局を經由して幌別駅前に戻る半時計回りの1周コースで、乗降場所は300～500m間隔で設定し、目印となる「のぼり旗」を設置した。
- ・ 便数は、午前4便、午後3便とし、期間は7月11日から8月29日までの毎週平日の火曜日と金曜日に運行した。
- ・ 市バスは、定員20名。利用者数が多い便は、10時頃に幌別駅前に着く第2便であ

り、数回、市バスに利用者が乗り切れず伴走車両に乗車していただいた。

- ・ 利用者の年齢層はほとんどが高齢者で、杖をついている方もいたが、同乗の市職員による乗降支援を必要とせず、自身で乗降していた。シルバーカーを車内に持ち込む利用者はほぼいなかった。夏休み期間中のためか、学生も少数利用していた。
- ・ 利用者が多く降車した場所はアーニス前で、買い物目的が多かったように感じている。
- ・ 今後、乗降データやアンケートなどの分析を進め、既存の交通網につなげる交通を基本に、交通事業者の営業エリアとの競合を回避するよう配慮するほか、地域の声をお聞きし、登別市地域公共交通活性化協議会で他の方式の導入も含めて検討していく。

### その他：幌別鉄南地区の個別避難計画について

#### 質問：山手町内会副会長

- ・ 個別避難計画について、町内会で避難支援が必要な方を把握するという話があったが、幌別鉄南地区ではどうやったのか、参考までに登別市連合町内会事務局からお答えいただきたい。

#### 回答：登別市連合町内会事務局長

- ・ 幌別鉄南地区連合町内会が個別避難計画のモデル地区として進められてきた。幌別鉄南地区は海が近いため危機感を持っている。津波災害時、幌別鉄南地区住民の避難場所は幌別中学校となっている。
- ・ しかし、幌別鉄南地区から幌別中学校までは距離があり、そこで、歩行困難な方の絞り込みを行った。絞り込みの結果は8町内会で61名であった。
- ・ 幌別中学校まで徒歩で避難できない方は、町内会などが支援し、近くの鉄南ふれあいセンターや幌別東団地4階、ときめき橋、JR幌別駅の自由通路といった高台に逃げることにしている。
- ・ 9月9日の全市一斉防災避難訓練では、絞り込みを行った避難支援が必要な方のうち30名が訓練に参加し、幌別中学校以外の高台に避難を行った。
- ・ 避難の支援となると町内会での支援と言われるが、幌別鉄南地区では、まず第一に近くにいる親族が避難支援を行うことにしている。

#### 質問：山手町内会副会長

- ・ 幌別鉄南地区は各丁目ごとに町内会が置かれているが、幌別西地区は広い地域を一つの町内会でカバーしているところが多い。例えば、新和会は富士町の広い地域をもっており、世帯数は約600～700世帯ある。柏木町内会も同様である。それを1人の会長に任せると5人や10人の役員では避難支援対応はできないので、市による支援も考えていただきたい。
- ・ 避難支援の必要な方の個別計画を策定することは町内会でもどうにかできるが、それを実際に支援することが町内会だけでは現実的に難しい。これについて、登別市連合町

内会や登別市社会福祉協議会なども巻き込みながら、市も含む全体で協力をお願いしながら、避難誘導などの対策を考えていただきたい。

**回答：総務部長**

- ・ もともとそのような仕組みの中で個別避難計画は策定していかなければならないという認識である。また、個別避難計画を進めていく中で、先ほど仰っていただいたことは課題の一つである。それらをどういった方法で解消していくかをこれから一つ一つ対応していきたい。行政としても考えていかなければならないと認識しているので、ご協力願う。